

若手福祉従事者の現状と今後の展望に関する
アンケート
～速報～

平成22年2月5日

- 目的：

福祉現場の最前線で働く若手従事者（10代～30代）が現在抱えている悩みや不安などの情報を収集・分析をすることにより、背景にある社会の仕組みや問題点を明確にする。調査によって集められた様々な情報をもとに、人材育成や政策提言に結び付ける



趣意文



私たちは、誰もが安心して暮らすことができる成熟した社会の構築を推進していくために、職域を超えた福祉の仕事に従事する10代、20代、30代の若手福祉従事者たちが、同世代のつながり合い・学び合いを通じ、想いや感性の情報共有をすすめ、新しい福祉の「形」や「未来」を一緒に描き、次世代の若手従事者たちが福祉に傾注するきっかけとなることを目指しています。今回の調査は、若手福祉従事者の現状と今後の展望に関するアンケートを実施し、その結果を踏まえ、人材育成や政策提言に結び付けたいと考えています。

アンケートURL

<http://www.insweb-q/wakamono/>

地域性がそれぞれ異なるように、考え方も一様ではありません。

ですが、こうした話し合いの「苦勞」から生まれたのが、今回皆さんにご協力いただいたアンケート調査実施の手法でした。

わずかな数人の考え方に相違が生じているのであれば、全国各地の私たちと同世代の若者たちは、きっと色々な想いをもっているはずではないだろうか？ マスメディアから伝えられるネガティブな情報ばかりではなく、想いや願い、そして希望をもって仕事をしている若者たちがいるのではないだろうか？ 様々なことが私たちの頭の中を駆け巡りました。

とした全国的なネットワークを生み出していきたく同じ想いを掲げる有志のメンバーの集まりです。

私たちは、いくつかのミッションを掲げ、全国的なネットワークを構築するために、まず何をすべきか話し合いを進めました。この1年間、何度も何度も話し合いを重ねましたが、すぐに結論を生み出すことはできませんでした。今思うと、それは無理もないな、と思っています。様々な都道府県から様々な実践をしている有志の集まりですから、いくら画一化された制度をもとに仕事をしているからといっても地域特性がそれぞれ異なるように、考え方も一様ではありません。

ですが、こうした話し合いの「苦労」から生まれたのが、今回皆さんにご協力いただきたいアンケート調査実施の手法でした。

わずか数名の考え方に相違が生じているのであれば、全国各地の私たちと同世代の若者たちは、きっと色々な想いをもっているはずではないだろうか？ マスメディアから伝えられるネガティブな情報ばかりではなく、想いや願い、そして希望をもって仕事をしている若者たちがいるのではないだろうか？ 様々なことが私たちの頭の中を駆け巡りました。

そうして気がついたのは、ミッションを達成しネットワークを構築していくためには、同世代の若者たちの想いに沿って事業を推進するため、若者たちの声を集めなくてはならないと。

そして、「集めなくてはならない」から「集めたい」に私たちの想いが変わり。
領域や立場を超えたあらゆる若者たちの声を集めたい。
みなさんの現状の不安や悩みを集めたい。
みなさんの想いや願い、希望を集めたい。

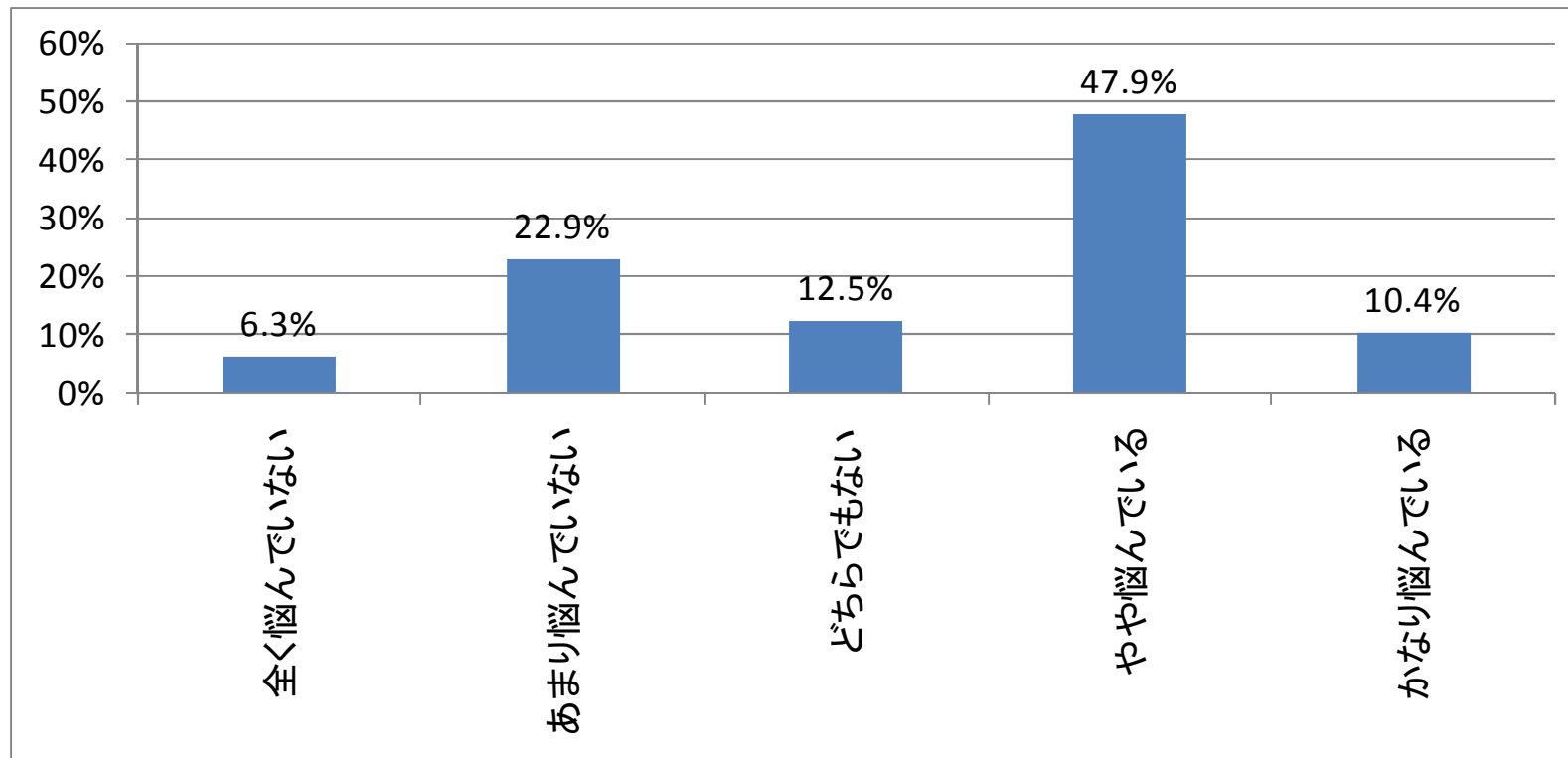
そして、その声を社会に向けて発信していきたい。
みなさんのひとりひとりの声から新しい価値観を生み出していく。

どうか、私たちに声を届けてください。
大事に大事にお預かりし、発信していきます。

現在の悩みや不安について

- 平均点は3.33ptとやや悩んでいる傾向
- 「悩んでいる」層と「悩んでいない」層に二分化

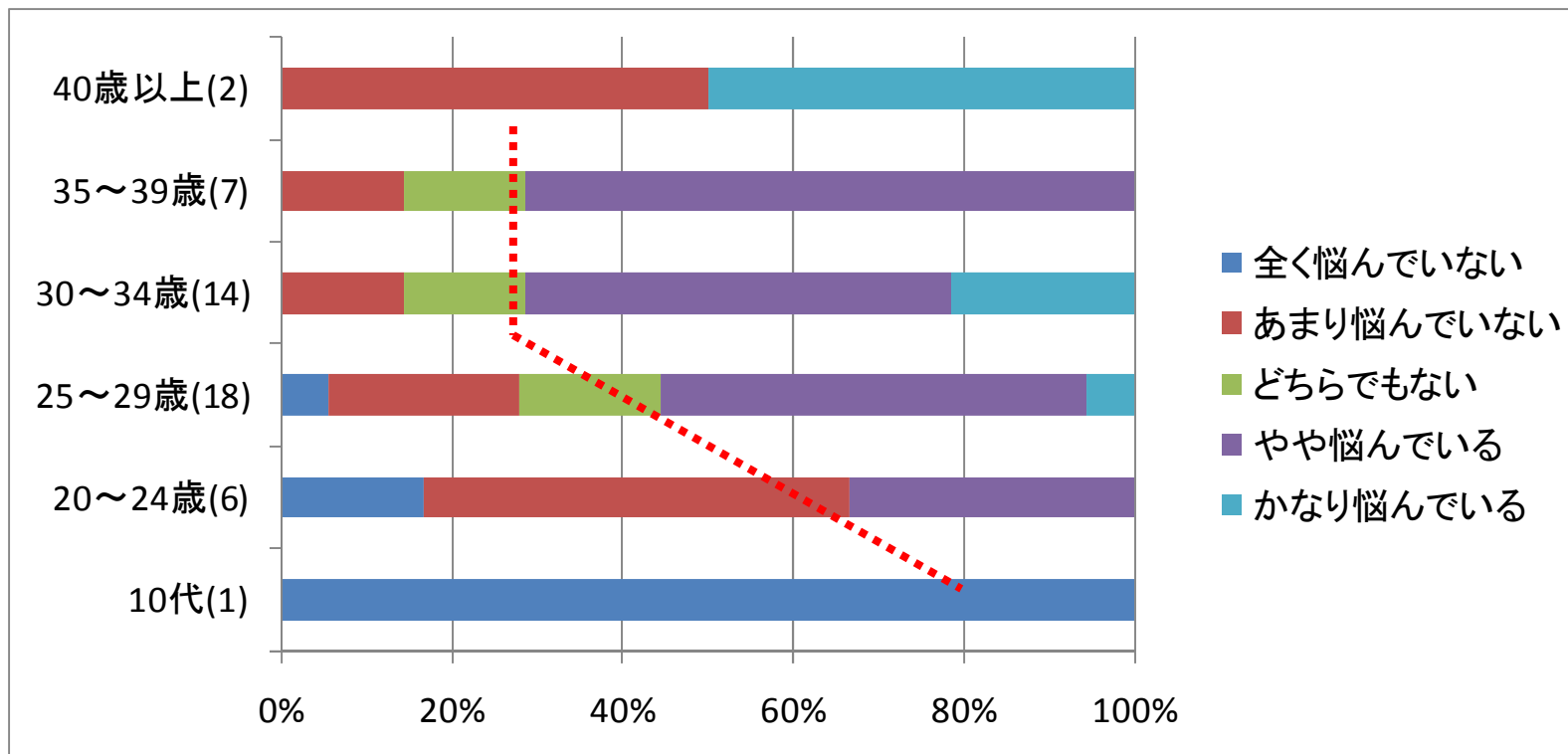
【現在の仕事に従事している中で、どの程度悩ましいと感じておられますか？】



現在の悩みや不安について ～年齢別～

- 20代前半はあまり悩んでいない
- 20代後半から悩みは拡大し、30代になると7割以上が悩んでいる

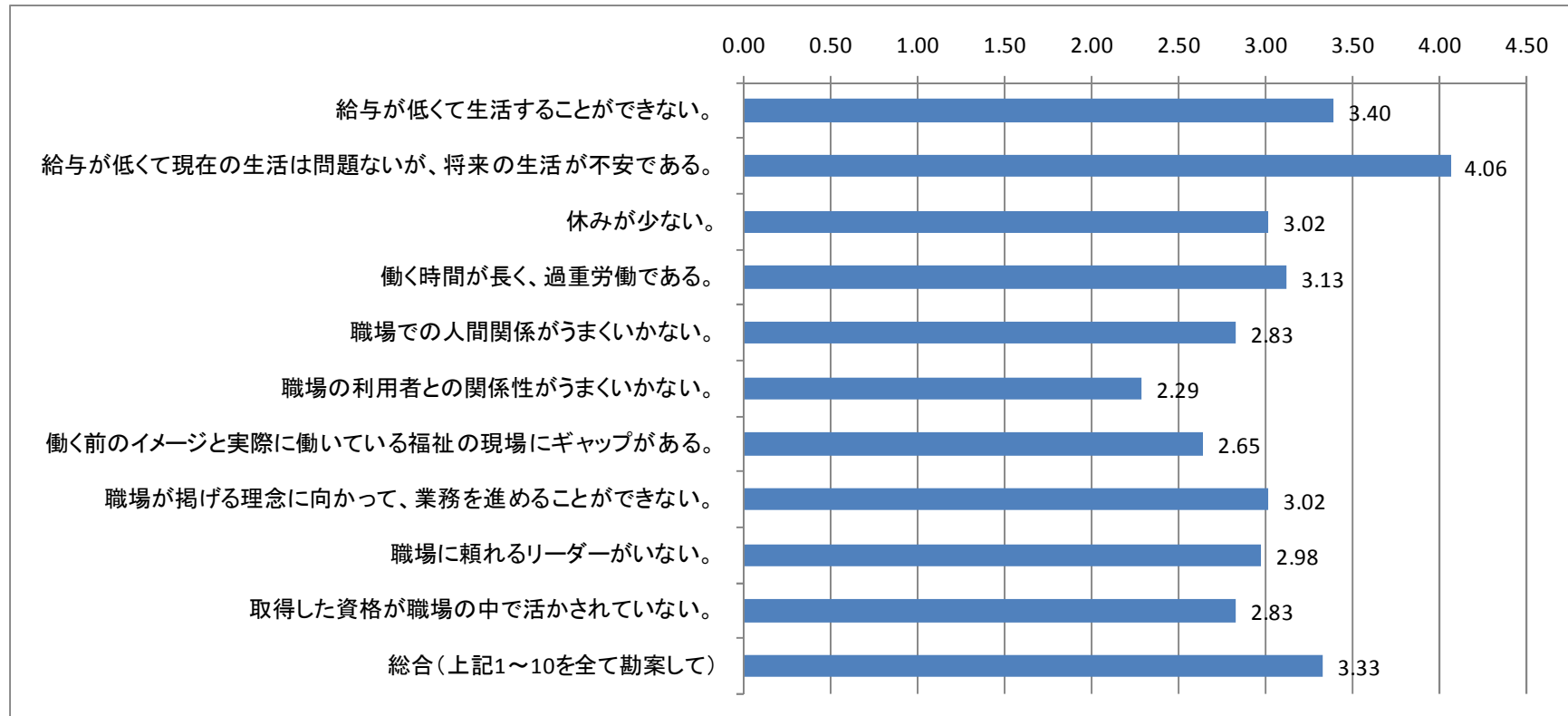
【現在の仕事に従事している中で、どの程度悩ましいと感じておられますか？】



現在の悩みや不安について ～項目別～

- 「給与が低くて将来の生活が不安」が突出（4.06pt）
- 「給与が低く生活できない」（3.40pt） 「過重労働」（3.13pt）

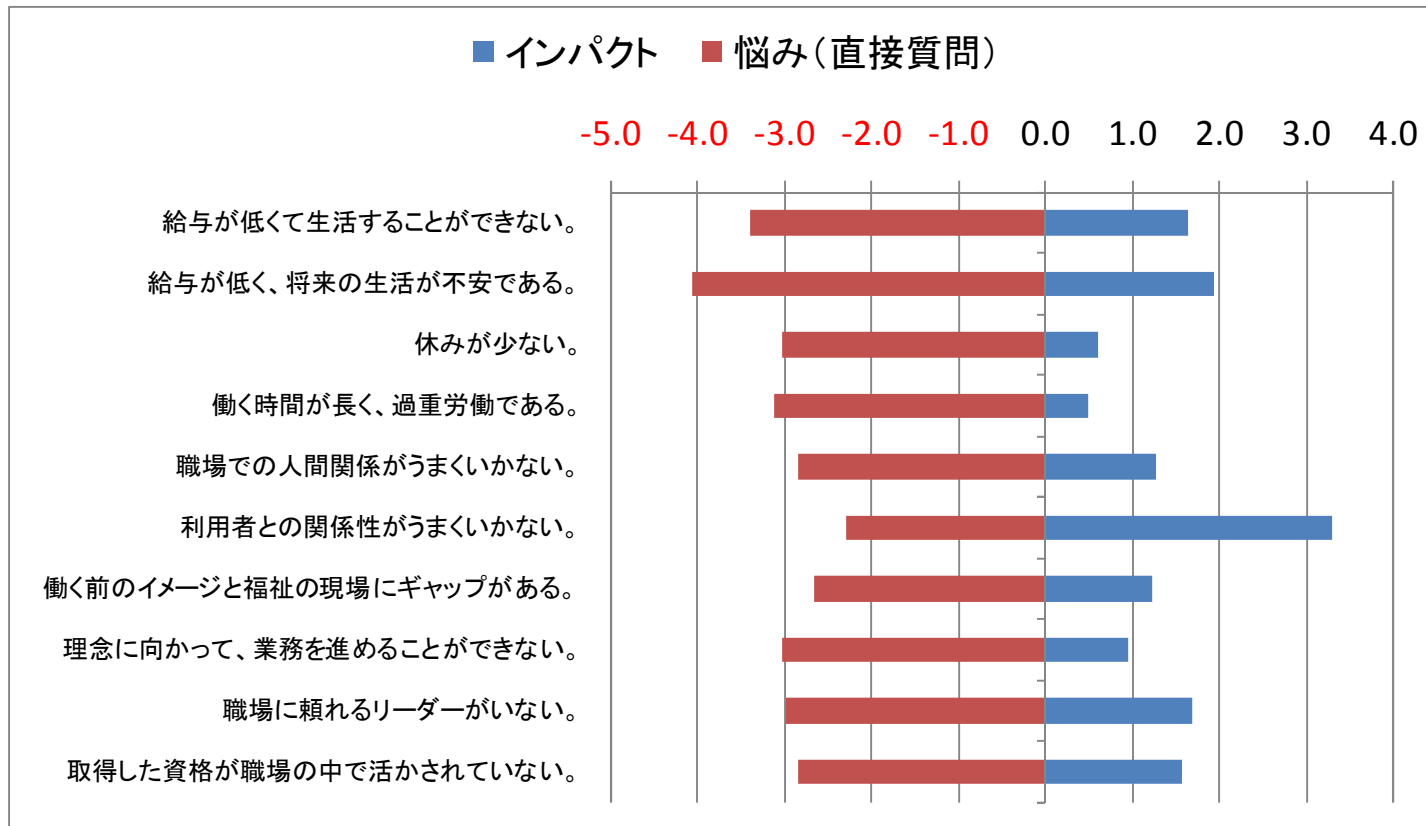
【現在の仕事に従事している中で、どの程度悩ましいと感じておられますか？】



現在の悩みや不安について ～建て前と本音～

- 給与や将来に不安を感じていても、総じれば悩みになっていない
- それよりも「利用者との関係がうまくいかない」という専門性に関わる部分での悩みの方が、根深い悩みに繋がっている

【悩み（直接質問）と総合へのインパクト】



※インパクト：数量化Ⅰ類分析による「レンジ」を使用

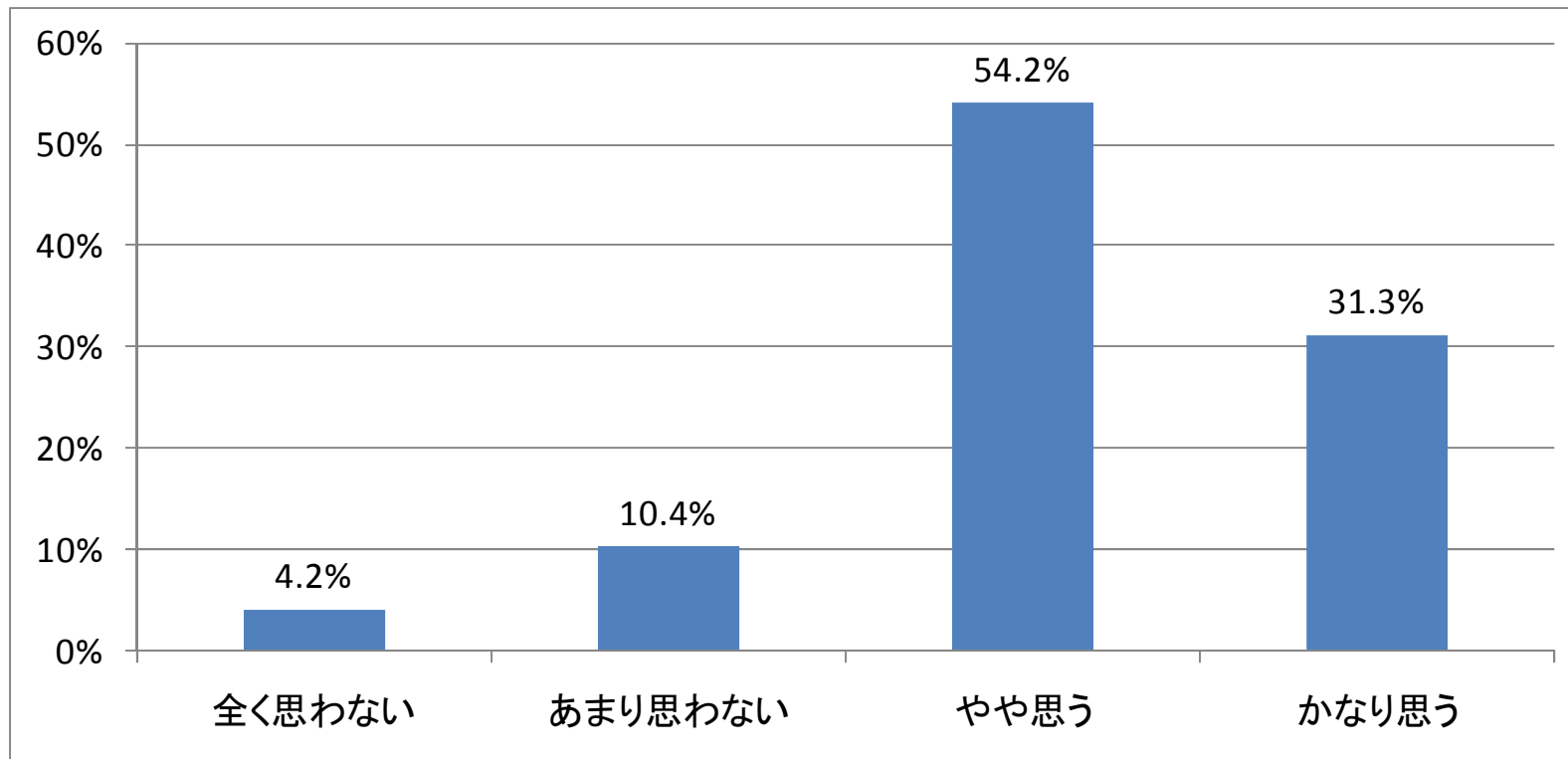
【ご参考】現在の悩みや不安について ～自由回答～

現在は実家で暮らしているので給料面では問題はないが将来一人暮らしや家庭を持った際など考えると少ないと感じる。そのため福祉職に就いている人は生活面などでやむ終えず辞めていくのだと感じる。	20～24歳	男性
・現状として、福祉の仕事が好きで一生懸命働いていたのに、給与が低いことが原因で退職していく同僚や仲間がたくさんいる。それが一番悲しい。今後、たくさんのやる気ある若い人たちと一緒に働きたいと思うので、私たちや後に続く学生さんや若い人たちが安心して就職できる施設でありたいと思うし、福祉分野全体が活性化してほしいと感じている。	25～29歳	女性
時給はある程度高いが、時間数が稼げないことで収入が低い。居宅事業の場合、一人で行動することが多く、ノウハウを学ぶことができない。研修などでも、今の問題を解決するような研修がない。保育士が無資格扱いなので資格を取りなおさなければならないが、介護系の資格が学齢児の支援に役立つとも思えない。	40歳以上	男性
福祉の仕事について、13年程経ちますが、給料はいくらも良くなっていません。ほとんど仕事を休むことなく、真面目に働いてきました。このままでは、やる気もでないです。将来が不安で仕方ありません。	30～34歳	男性
法人の相談員職で採用され、職場内でも有資格者で経験者は貴重であり、活躍の場はいくらでもあるのに、雑務ばかりやらされる。相談業務に携わりたいが、上層部や上司の方針、今後の方向性は定まっておらず、業務の内容についても決まっていない。今まで色々な提案をしてきたが、いまいち何も発展せず、もともとやりたい病院での相談員業務に移ろうかと、転職を考えています。	25～29歳	女性
仕事自体は嫌いではないし、自分に合っていると思いますが、今の働き方では長く続けることが難しいと思います。休みが少ないことや長時間労働なことは改善していきたいです。	25～29歳	女性

福祉職＝過重労働・低賃金というイメージ？

- かなり思う31.3%、やや思う54.2%と85%以上が「思う」

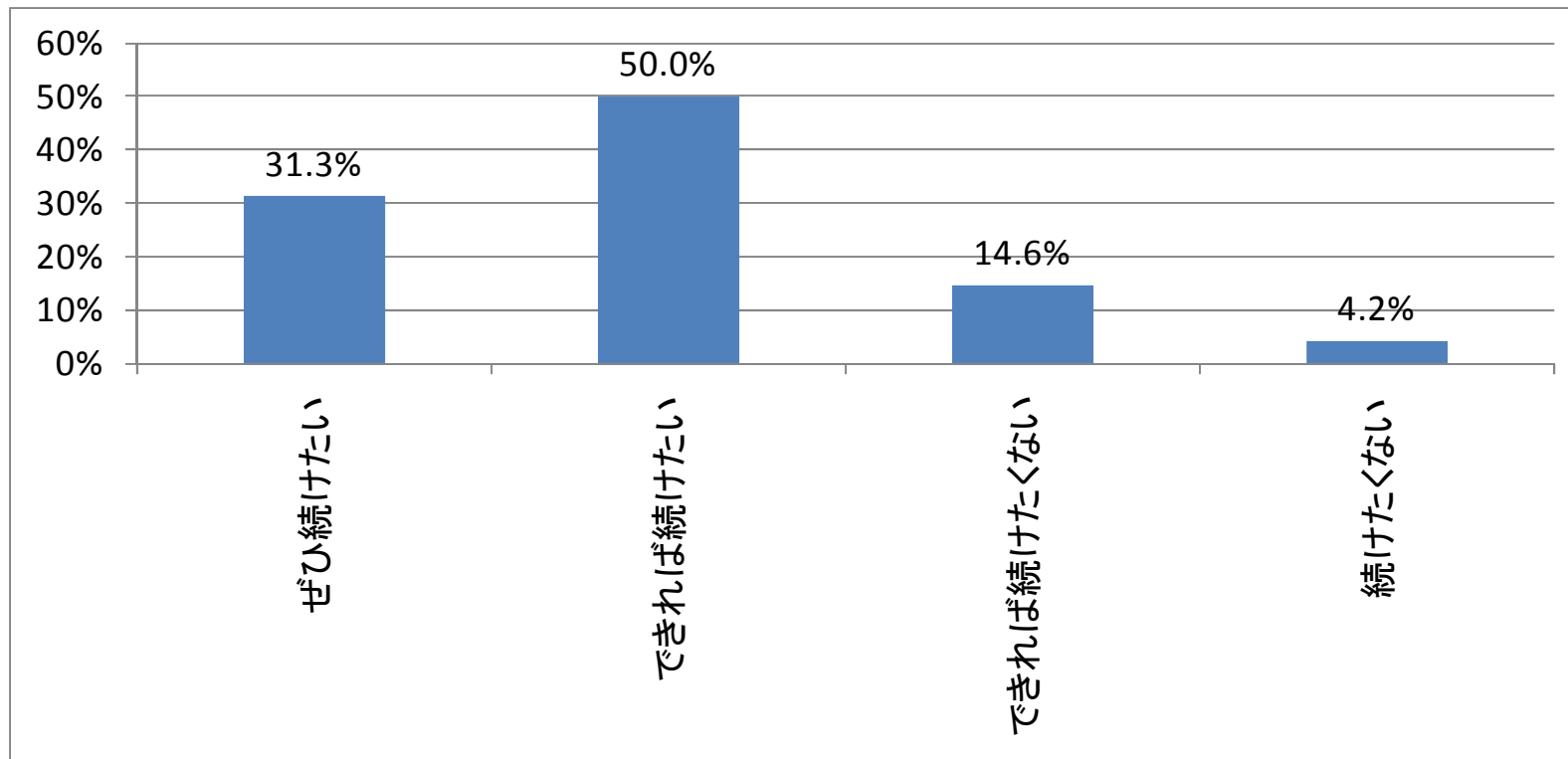
【メディアでよく言われている「福祉職＝過重労働・低賃金」というイメージはその通りであると思いますか？】



生涯この仕事を続けたいですか？

- 「是非続けたい」 31.3%、「できれば続けたい」 50.0%と8割以上が続けたいと考えている

【生涯この仕事を続けたいですか？】



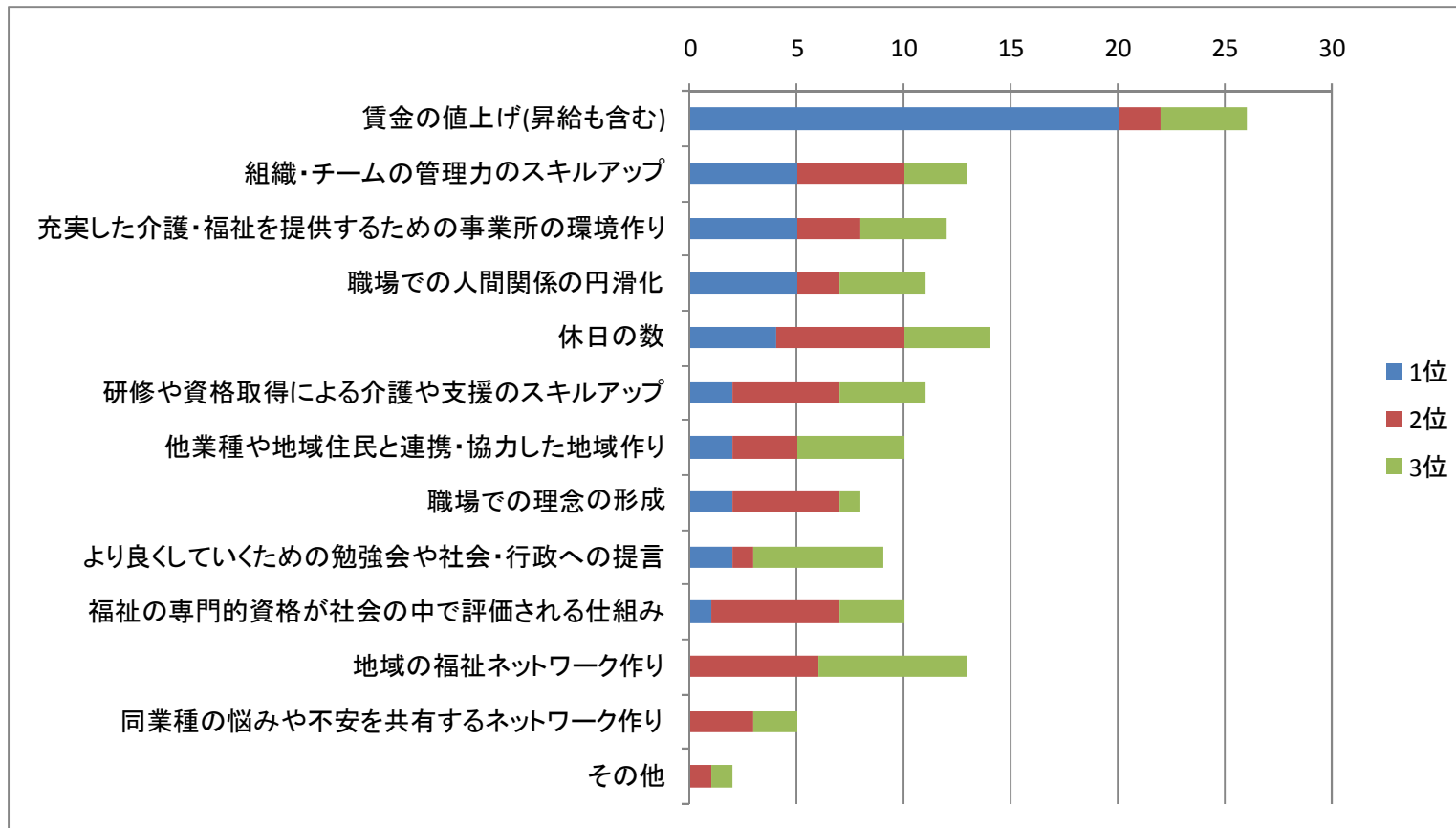
【ご参考】 福祉職のイメージについて ～自由回答～

メディアが取り上げているように実際問題過重労働であり低賃金であると思う。このままでは若者は減り続け、やがては老老介護のようになってしまわないかと心配	20～24歳	男性
楽な仕事なんてないと思う。大変だし悩むことも多いけれど、低賃金・過重労働で悩んでいるわけではない。マスメディアでそこばかりがクローズアップされることで、マイナスイメージが膨らむのではないだろうか？テレビの影響ってものすごく大きいと思う。何か悪いことをした罰的にボランティアや福祉の仕事が取りだたされることにも違和感を感じる。	25～29歳	女性
福祉職は、やりがいのある仕事。生きていると実感できる仕事であり、生涯続けていきたい。しかし、職場で福祉の仕事についているのに、あたたかな人間性のかけらもない人が働いている現実がある。好きではないけど、生活のため、仕方なく働いているとか。。福祉には、専門意識も大切だろうと思う。	30～34歳	女性
福祉の現場では、毎日いろいろなことが起こっています。人命を預かり、それぞれの抱えているさまざまな問題にここの専門性を生かしながら支援に望んでいることと思います。時には彼らの人生をも左右する重要な責任を担ってさえいると考えます。私はこの仕事はとても重要かつやりがいのある仕事であると考えます。しかしながら専門職といわれる割には、将来への希望があまり見えない気がしてなりません。「職員の安定」＝「仕事を続ける」＝「経験を積み重ねることが出来る」＝「サービスの質の向上」といった図式が目に見えているのに・・・	30～34歳	男性
現場レベルでは、楽しく仕事をしているので、実際にやってみると、意外と楽しく仕事ができると思う。社会が「大変」「しんどい」というイメージを助長しているところはあると思う。	25～29歳	女性

現在の仕事において求めているもの

- 賃金の値上げ、管理力のスキルアップ、事業所の環境作り...

【現在の仕事において求めているものは？】



これからの福祉の未来について ～自由回答～

<p>「障がい児者」や「認知症高齢者」などに対して、差別や偏見のない社会が、イコール「ノーマライゼーション」であるかは分からないが、少なくとも、「そういった人たちが当たり前地域社会で存在して良い」という認識は、多くの人に持ってもらえたらと思う。「施設」に閉じ込めない、「自宅」に閉じ込めない、生きていく上で何らかの困難を抱えている人はいっぱいいるわけで、それが福祉制度によって「支援対象者」とみなされてしまうがために「偏見」が生じてはならない。足が不自由な人がいる、理解力に乏しい人がいる、数分前のできごとを忘れてしまう人がいる…それも含めて「地域社会」なのだと、そう思えるような地域があると良いと思う。</p>	25～29歳	男性
<p>生まれてから死ぬまで、社会的に何か困難な事があり、誰かの助けが必要とされる時に、どんな人間であっても手が差し伸べられて、支えあえる社会というものが形成されれば良いと思います。また、「障がい福祉」「高齢者福祉」「児童福祉」などあらゆる分野からその頭の部分がなくなり「福祉」というひとつの大きなジャンルに統合されて、人間が幸せになるための仕組みというものができたらな…と思います。</p>	30～34歳	女性
<p>大きくなったら福祉の福祉の仕事がしたい！という子どもたちが増えるような社会。 マイナスイメージばかりではなく、福祉の魅力をもっと知ってもらえるとよい。</p>	25～29歳	女性
<p>社会を創るという大目標を目指すのも構いませんが、現場レベルでは、日々支える利用者さんの毎日を一生懸命考えていること、それを当り前に普通に誰もが考えられる(理念はそっちのけでお金ばかりに固執したりしない)環境(=法人、事業所)作りから…その「環境」の広がりが自然と「地域」「社会」レベルへの広がりとならないと、外側(外見)だけの見栄っ張り福祉になってしまいそうな気がして心配です。</p>	30～34歳	男性
<p>将来、誰も我慢することがなく(心身ともに過重な負担が無く)、「幸せだな」と感じる事が出来る福祉になれるといいなと思います。 3障害統一だけでなく、子ども、高齢者、障害者の垣根を越えたサービスが提供できるような事業所を作りたい。</p>	25～29歳	女性